

# 水道使用量を遠隔検針

## 水みらい広島 省力化へ自治体提案

広島県や呉市が出資する水道関連事業の水みらい広島（広島市中区）は、水道の使用量データを遠隔で確認できるスマートメーターの普及を目指す。宮島（廿日市市）で実験し、無線データを送ると確認。作

業の省力化などを目的にスマートメーターへの切り替えが進む電力業界と同様の事業主体の自治体への提案を本格化する。

4月の1カ月間、島内の3カ所にデジタル式の水道

メーターを設置。無線を通じて、新しい鉄製のふた越しでも、30㍍程度離れた受信機に使用量のデータを飛ばし、保存できると確認した。

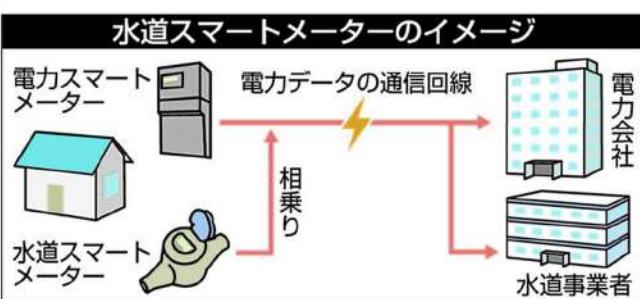
現在のアナログ式メーターの水道検針は、担当者が2カ月に1回の頻度でふたを開けて確かめており、省力化できるという。

水みらい広島は、電力のスマートメーターの通信回

切り替えは2015年にスタート。今年6月までに約7割を終えた。水道は全国でも実験的に設置が始まつた段階にとどまっている。水みらい広島は、電力のスマートメーターの通信回線に相乗りし、水道データを取得する動きが進むと予測。「人手不足の検針業務の自動化は、多くの自治体に共通する課題。導入や運用の支援業務を受注したい」とする。スマートメーターなら使用量の推移が1日数回程度、事業所の中でも実験的に設置が始まつた段階にとどまっている。水漏れの早期発見などにつながる利点も強調する考えだ。（桑田勇樹）

中国新聞 2021年8月27日 金曜日 中国経済 16 9ページ

水道スマートメーターのイメージ



スマートメーターの設置は電力業界が先行している。中国電力ネットワーク（広島市中区）によると、中国地方の約505万台の